

東海大學日本語言文化學系校外實習心得報告 113 學年 1 學期

2024 年 1 月 10 日

學 號 / 姓 名	S091501〇〇
實 習 地 點	沖繩那霸國際機場
實 習 期 間	2024 年 7 月 1 日 ~ 2025 年 1 月 30 日
實 習 心 得 内 容	<p>バイト経験もない私は初めて海外で働くことになった。その前に関西で交換したことがあるので、最初はそれほど緊張していなかった。それでも、故郷を離れると、不安や寂しさを感じるものだ。</p> <p>料理を作るから、職場で他人とのコミュニケーションまで、日本に来ていろいろなことを学ぶことができた。最近、起きてからミラーに映る自分の姿を見て、少しでも大人らしくになったよねと感じるようになった。変わったのはメイクだけではなく、どんどん社会人になるための責任を負う覚悟ができるようになった。</p> <p>来日の最初の一か月は全て新鮮に感じられ、仕事も比較的簡単だった。例えば、荷物を流したり、番台でチケットをかざしたりするような業務だ。その後、業務は徐々に増えていった。その中で、最も難しかったのはカハンで交流する。なぜかという、日本語は第二言語であることに加え、カハンで交流する時もよく雑音があるので、日本人でさえも聞き取りにくい。幸いなのは、経験の積み重ねるうちに、カハンでの交流もよくなってきた。</p> <p>最初の四か月ぐらいの業務は大体順調だったが、十一月に大きな変化があった。十一月からは本番にカウンター業務に入り、業務の勉強は難しくなる。それ以外に、勉強する時間も少なかった。したがって、カウンターの OJT の期間には初めて職場とはこんなものだと実感した。学校と違って、職場の教育はより実践的でスピード感がある。四日の教育が終わり、すぐに OJT (On the job training) に入る。OJT だとしても、ただの 8 日で、その後は自分ひとりでカウンターをやらないといけない。今、その OJT の時期を振り返ると、自分が頑張る続けることにびっくりした。</p> <p>今学期私の仕事はずっと国際線にいる。ゆえに、日本語より、英語を使う場合の方が多い。英語のコミュニケーション能力が進めるのは楽しいけれども、日本語を使わないと忘れる。むしろ、沖縄に来てから、自分の日本語能力は逆に低下する。おそらく一番原因になるのは雰囲気だろう。交換留学と違って、自由に話せるわけではない。そして、初めて日本語を話すのはちょっと怖いと感じた。なぜかという、上司と先輩たちと話すのはついに緊張になってしまう。</p> <p>言語力が低下に対する件には解決の対策も考えたことがある。休みの時間と仕事後の時間を利用し</p>

ようとするが、うちについて晩御飯を済ませてからすでに疲れた。そして、リフレッシュのため、休みの日もたまに出かけ、勉強のやる気がない。つまり、最近の時間管理がうまくいけない。やる気が出ない時もあるけれど、少しずつやる気を取り戻すのも考えないといけない。カウンター業務をもっと上達したら、徐々に自分と似合う方法を見つけよう。

最後は、このインターンシップを応援してくれた皆に心から感謝の気持ちを伝えたいと思う。学校と家族からのサポートがなかったら、海外で働いてみる勇気がないかもしれない。特に、私が不安を抱いていた時に、家族は常に励ましてくれる。そのおかげで、私は無事に海外でのインターンシップに挑戦し、貴重な経験を積むことができた

インターンシップを通して、社会人になるとなんの状況に臨むのかどのように解決すればいいのかも勉強になった。インターン先では、予期しない問題や緊急対応がよくある。その都度冷静に考え、迅速に対応する能力を養う。または、日々の業務を通じて責任感とチームワークの重要性も改めて認識した。特に、空港で働くからこそ、同僚とお客様は他国からの人が多い。異文化理解と協力の重要性も学んだ。今後も積極的に自分の成長を続けていきたいと考えている。インターンシップの経験を生かし、将来は国際的な場で活躍できるような人材をになれるように頑張る。

実
習
活
動
照
片
(4~6
張)

